

理学療法士から医師を目指して

杉野亮人¹⁾

1) 琉球大学医学部医学科 3 回生

私は理学療法士免許取得後、和歌山県立医科大学附属病院リハビリテーション科（以下、和医大リハビリ科）に入職し、急性期医療現場で7年間の理学療法業務を行い、現場ではまさに超急性期からのリハビリ実施の日々を送ってきました。和医大リハビリ科は他では学べない貴重な経験、知識、技術が得られる職場であり、多職種間でのチーム医療を経験していくなかで、急性期での理学療法士としての役割を学び得ることができる職場であったと感じています。

ですが、その一方で私は急性期医療現場において医師や看護師等が行う医療行為を目の当たりにし、患者の急変時において自身の立場ではほぼ何もできない状況を多々経験し、そのような日々の経験なかで多くの患者に対し、理学療法士として医療人として、さらに知識、技術を身につけて、患者・家族の力になりたいと思うようになり医師を志した、というのが経緯です。

私の場合は琉球大学医学科へ学士編入学したことにより2回生からスタートしました。学内では様々な基礎・臨床科目の授業に加え多くのテストがあり、その他様々な実習等があります。入学して現在までに感じたことは、勉強面に関しては、解剖学に加え、脳血管・運動器・呼吸器・心大血管をはじめとした各臨床科目の知識については、実際に理学療法士時代に臨床で遭遇した症候などつながりやすいため、勉強はしやすいと感じております。

実習等についても、現在までに病院をはじめ様々な現場で医師の役割を学ぶ機会がありました。通常、医学科では4年～6年の間に本格的な臨床実習が予定されています。また、医学科では将来多くの職種と関わることが多ことから、医師以外のことも深く学ぶために、看護師、救急隊員、薬剤師、栄養士、介護福祉士等、様々な職種について理解を深めることを目的に実習を行います。私自身も、理学療

法士とは違った視点で実習を受けることで、新鮮さも感じながら多くの発見があり、なおかつリハビリの重要性を改めて感じる機会も多くありました。

今はまだ私自身学生の身分であり大変恐縮ではございますが、学会当日は入学してから現在に至るまでのことを中心にお話させていただきました。自身と同じように医学科を検討している先生方がもしおられましたら、その方々の参考になれば幸いです。これからは、まず卒業と国家試験合格を目指し、将来の臨床現場では医師・理学療法士の立場から様々な急性期患者の診療に携わることを目標にし、その中で微力ながら急性期リハビリテーションの発展にも貢献していきたいと思っております。